

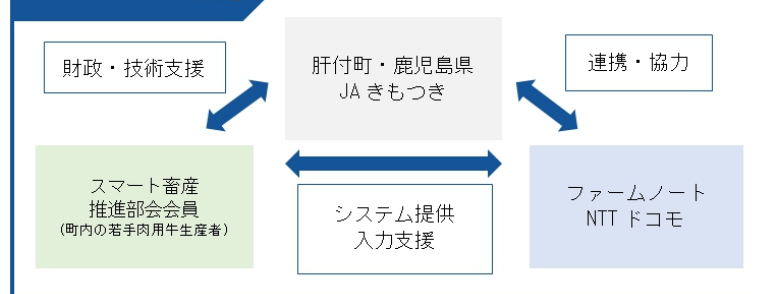
【国内初】自治体主導によるスマート畜産推進事例（鹿児島県肝付町）

事例の概要

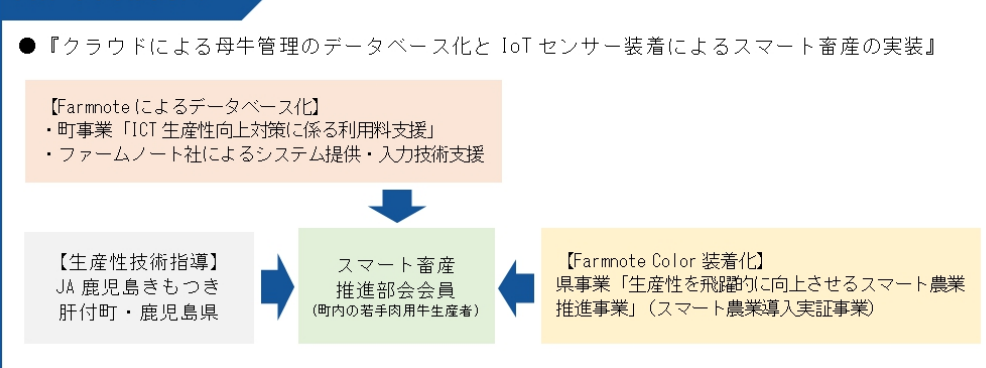
- 酪農・畜産向けICTソリューションを提供するファームノートとNTTドコモ社、地域関係機関（鹿児島県・JA鹿児島きもつき）が協力支援体制を構築し、国内初となる自治体主導でのICTを活用した肉用牛生産者の労働力軽減と生産性向上を図る社会実験を実施。
- これまでのスマート畜産は生産者が個人で機器等の導入やアプリケーション利用を行ってきたが、本プロジェクトは町が主導し、生産者をグループ化、アプリケーションを地域にて同時に実装。
- プロジェクト概要
 - ・ICTを活用した繁殖母牛管理データベース化と生産技術の向上支援
 - ・牛向けIoTセンサーを装着したスマート畜産の実装
- 実装対象者および実装期間
 - 実装対象者：肝付町スマート畜産推進部会会員（20名：45歳以下の若手肉用牛生産者）
 - 実装期間：令和元年8月28日から令和2年3月31日
- 本プロジェクトに期待する定量的な効果
 - ・支援活動による分娩間隔の短縮による出荷頭数の増加
 - ・数値や情報の見える化による管理指導の高度化
- 本プロジェクト推進に至った背景

肝付町の基幹産業である肉用牛生産の現状は高齢化による離農が進み、後継者不足はもとより、担い手生産者が飼養規模を拡大するには投資負担が大きく、また飼料生産基盤や労働力の確保が難しいなどの事情がある。これらの肉用牛生産が直面する現状や課題を認識したうえで、自治体と地域内外の関係機関、生産者とが三位一体となって、人（担い手・労働力の確保）、牛（飼養頭数の確保）、飼料（飼料費の低減・安定供給）それぞれの視点から、生産基盤を強化するための取組を進めることが、喫緊の課題と認識しており、その施策の一つとしてICTを活用したスマート畜産の推進による肝付町畜産の安定的な発展を目指したいという思いがある。

プロジェクトの構造



具体的な展開方法



Farmnote Color装着例

